

小学校教科等研修講座(国語科)

教科等指導員 瑞穂小学校 主幹教諭 太田 裕子

担当指導主事：塩家 崇生

キーワード：物語を読む力 書くことで深まる読み 対話による学び 子ども主体

1 実施概要

実施月日	講師等	場所・形態	演題(またテーマ)
10月11日(木)	対談者：池尻小学校 小木曾 笑子 主幹教諭 対談者：瑞穂小学校 太田 裕子 主幹教諭 コーディネーター 塩家 崇生 指導主事	瑞穂小学校 多目的教室 対談・協議	子どもの読みを深める 「書くこと」とは
11月20日(火)	授業者：瑞穂小学校 太田 裕子 主幹教諭	瑞穂小学校 4年4組教室 研究授業・事後協議	授業 「ごんぎつね(第4学年)」 事後協議 読む力を高める国語の授 業を目指して～言葉に向か おうとする子どもと共に～

2 主な内容

(1) 「子どもの読みを深める『書くこと』とは」

読みを深めるための力をつけるとともに、単元・学年・6年間の見通しをもって生きる力につながる学力をつけていくことの意義とその中で書くことの位置づけをする。

① 新学習指導要領における基本的な考え方を踏まえて(小木曾主幹教諭からの提案)

新学習指導要領の中に盛り込まれているキーコンセプト「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」を確認。具体的な指導方法の提案をうけ、書くことの意義について考えた。

② 授業の中で「書くこと」の実践例として

—第6学年で「生きる」を考える—(太田教諭からの提案)

年間のめあてを『生きるを考える』とし、詩「生きる(谷川俊太郎)」・エッセイ「森へ(星野道夫)」・詩「せんねんまんねん(まど・みちお)」・物語「やまなし(宮沢賢治)」・物語「海の命(立松和平)」・書く「卒業へ向けて」の6単元における学習活動の提案を受けた。そして、各単元を貫くねらいの重要性とその中で「書く」の位置づけ方とその意義を協議した。

(2) 「ごんぎつね(第4学年)」

① 授業について

単元名一読んで考えたことを話し合おう

「ごんぎつね」(光村図書4年下) —

本時は「ごんぎつね」最後の場面を扱った授業となった。ごんと兵十の姿や情景描写をしっかりと見つめ、自分の考えを持つというめあてが提示される中、グループ・全体での学び合いが展開された。



事前に一人一人が書き込んでいる書き込みノートは持たず、教科書の文章を丁寧に読み合い、意見の交流。最後は、この物語のクライマックスとしてこの結末を自分がどう納得するか、納得できないか一人一人の思いを出し合う形で授業が終わった。一人一人が自分の読みと向かった思いを書く場面は本時内にはおさまらなかった。

② 事後協議

「一人一人が他者の考えと対話し、自分の考えを深めるための交流」・「書くことに始まり、書くことに終わることで、自分の読みとして収める。」・「新美南吉の作品を並行読書する」という3つの活動を軸にして単元全体が進められていることのよさを確認。対話的な学びにおいて、他者と対話し、テキストと対話し、自分自身とも対話するということは、これまで同様、児童相互の絡み合いを大切にし、文学的文章の読みを深めるために大切であることも確認しながら協議が進んだ。

協議として、主に次の5点が話し合われた。

- ㊦授業時数 ㊧板書の意味 ㊨書き込みのさせ方 ㊩子どもの誤った解釈の扱い方
- ㊪○か×では解決しない読者としての思い



3 成果と課題

(1) 成果

- ① 新学習指導要領における全体及び国語科のポイントが明確にでき、書くことの扱いを中心に具体的な方法の糸口がつかめた。
- ② 対話的な活動において、他者と、テキストと、自分自身と対話することの意義とその上に立った活動が子どもの学びの意欲と質を深めることを確認できた。
- ③ 学校独自の研究の大切さも再確認することができた。

(2) 課題

- ① 学年相互、教科相互のつながりの明確化。
- ② 教材の特質を生かした活動の精選と真の学びの姿の追求。